

当院での被ばく低減の取り組み

【放射線について】

放射線（X線）は、体の中の構造や病変の広がり・性状を詳しく調べるために幅広く医学に利用されています。当院では不必要な放射線被ばくを抑えるために以下の取り組みを行っています。

- ・放射線を利用する機器について、始業前後の点検および定期的な点検を行う。
- ・可能な限り、被ばくを伴うCTよりも被ばくを伴わない超音波検査やMRIで検査を行う。
- ・CTや核医学検査、血管造影など被ばくを伴う検査に関しては日本国内の標準値との比較を行い、被ばくが過度に多くないかどうかを定期的に検討する。

【放射線被ばくによる影響について】

放射線被ばくによって人体に起こる影響には確率的影響と確定的影響があります。確率的影響：被ばくする放射線量が増えるほどその発生確率が高くなる影響で、発がんや遺伝的影響があります。影響が現れる期間は数年から数十年後です。1回の検査で受ける100mSv以下の放射線量では、その関係は明らかにされていません。確定的影響：しきい値（しきい線量）を超える放射線量を被ばくすると一定の割合で起こる反応で、代表的な反応に皮膚紅斑や脱毛、骨髄減少などがあります。1回の検査で受ける100mSv以下の放射線量では、確定的影響が発生することはほとんどないと考えられています。

CT検査での放射線被ばく線量は、撮影方法や部位により異なりますが、1回の撮影で5～30mSv程度（放射線医学総合研究所ホームページより）となります。Sv：シーベルト（実効線量：局所の被ばくを全身の被ばくに換算した場合の線量単位）

【より詳しく知りたい方へ】

小児の医用放射線被ばくについては国立成育医療研究センターにて「こどもの医療被ばくを考えるサイト PIJON」が公開されておりますので、ご参考にしていただければ幸いです。（下QRコード）

